

アドイン照合プログラム  
for アシスタック Pro BHT-1500  
取扱説明書 第2版



2016年 3月 10日  
コンピュータ・アシスト株式会社



## 目次

1	照合プログラムの動作設定 .....	1
2	データ区分 .....	2
3	照合設定 .....	8
3-1	照合データ条件.....	8
3-2	動作モード.....	12
3-3	OK/NGブザー設定.....	13
4	データ保存 .....	14
5	設定更新 .....	16
6	マスターファイル作成/送信 .....	17
7	ハンディターミナルプログラム .....	19
7-1	アドイン照合プログラムダウンロード.....	19
7-2	業務設更新.....	20
7-3	アドイン照合プログラム実行.....	21
7-4	1対1照合 ~ 1対5照合.....	22
7-5	照合1対N照合.....	23
7-6	入力/データ処理エラー表示.....	24
7-7	照合データ送信.....	25
7-8	マスターファイル受信.....	26



## 1 照合プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「DACMP150.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドインプログラム」を選択

業務設定(照合サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了  
業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択  
基本設定 動作設定

業務メニュー  
1対1照合  
1対5照合  
1対N照合

BHT - 1500画面  
1対1照合

設定する  
アドインプログラムの画面表示になります。

業務名 1対1照合 (半角15文字以内)  
動作モード アドインプログラム プログラム名 DACMP150.PD4  
アドインプログラム設定

「DACMP150.PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

## 2 データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして [データ区分を使用する] をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」と「フィールド情報」を設定します。

マスターファイルにデータが登録されていないとエラーになります。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 サツ れ表示), 日付 (YYYY/MM/DD), 日付 (YY/MM/DD), 日付 (MM/DD), 時刻 (HH:MM) から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 サツ れ表示) のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	[バーコード使用] をチェックして、[バーコード読取設定] ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	[文字列表示マスターファイルを使用する] をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 [マスターデータがない場合エラー] を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。



・データ区分におけるバーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

JAN/EAN/UPC  雑誌コード

ITF  なし  あり  STF  なし  あり

NW7  なし  あり  Code39  なし  あり

Code93  GS1-128/EAN-128/Code128  GS1 DataBar

ユーザー定義

JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータ外に含めない

データフォーマット 固定長

データチェックを使用する

チェックデータ位置 1桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

バーコードデータ

選択データ 1桁目から 99桁

指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータ外に含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータ外に含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータ外に含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。

「1桁目から10桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から10桁」がデータ区分のデータになります。

「99桁目から10桁」と設定した場合は、「末尾から10桁」がデータ区分のデータになります。





□ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目] ] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13), UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字(国フラグ)であり、0~9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド2of5 (ITF)

書式: I [:[最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式: N [:[最小桁数 [-最大桁数] ] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2~99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、



スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 39

書式： M [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 93

書式： L [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

#### □ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



#### □ スタンダード 2 of 5 (STF)

書式： H [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

#### □ GS1 DataBar (RSS)

書式： R [コード: [最小桁数 [-最大桁数]] [Stacked]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional )
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上のGS1 DataBarコードののどれでも読むことができます。

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

Stackedは、Stackedタイプの読み取り指定です。Sを指定すると、Stackedタイプの読み取りも可能とまります。Stackedは、コードしていEとSの場合に有効です。

GS1 DataBar ExpandedとGS1 DataBar Expanded Stackedについて、FNC1キャラクタは、GSキャラクタ(1Dh)に変換しバーコードバッファに転送されます。



### 3 照合設定

バーコード照合，部分データ照合，マスター照合を混在して設定します。

#### 3-1 照合データ条件

動作モード，NG表示後の動作，項目名，バーコード読取，マスター参照，照合条件と OK/NG 表示ブザーを設定します。

1対1照合～1対5照合，1対N照合から選択

ここをクリック

動作モード 1対5照合

NG表示後の動作 再入力

照合元  
項目名 照合元

バーコード読取 マスター参照

照合先1  
項目名 照合先 1

バーコード読取 マスター参照

照合条件

照合先2  
項目名 照合先 2

バーコード読取 マスター参照

照合条件

照合先3  
項目名 照合先 3

バーコード読取 マスター参照

照合条件

照合先4  
項目名 照合先 4

バーコード読取 マスター参照

照合条件

照合先5  
項目名 照合先 5

バーコード読取 マスター参照

照合条件

OK表示時間 30 1/10秒 NG表示時間 30 1/10秒

OKブザー設定 NGブザー設定

NG表示後に再入力するか照合元入力に戻るかを選択します。

読み取ったバーコードデータと読取済みバーコードデータまたはマスター参照データの照合する条件を「バーコード読取」，「マスター参照」，「照合条件」をクリックして設定します。

OK表示，NG表示の時間とOKブザー，NGブザーの鳴動を設定します。



### ①照合元／照合先のバーコード読取設定

照合元 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

JAN/EAN/UPC  雑誌コード

ITF  STF

NW7  Code39

Code93  GS1-128/EAN-128/Code128  GS1 DataBar

ユーザー定義

JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

データチェックを使用する

チェックデータ位置 1桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

照合データ数 5

照合データ	桁目から	桁
照合データA	1 桁目から	10 桁
照合データB	11 桁目から	10 桁
照合データC	21 桁目から	10 桁
照合データD	31 桁目から	10 桁
照合データE	41 桁目から	10 桁

指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

照合するデータを1～5データ設定します。この照合データを使用して照合条件を設定します。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC をGTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPCのバーコードを読取った場合にGTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、照合データで使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
照合データ数	読取ったバーコードの部分データを照合データとして設定する数を選択します。(1～5)
照合データ先頭から桁数	照合にしようとするデータを設定します。1桁目から99桁と設定すると、バーコードの全データを照合データとします。
指定文字を削除	指定した半角文字を削除して照合データにします。3文字まで指定できます。



## ②マスター参照設定

照合と情報表示に使用するマスター参照データの設定をします。

設定項目	説明
マスターファイル	マスター参照に使用するファイルを設定します。 <b>マスター参照を使用しない場合は空欄にしてください。</b>
検索キーフィールド	検索するフィールド No を設定します。
検索キーデータ	バーコード読取設定において設定した照合データを検索するキーとちて設定します。
検索データが存在しない場合エラー	設定すると、検索データがマスターファイルに存在しない場合、エラーにします。
情報表示データ参照	マスター参照データの情報を画面に表示する場合にチェックしてください。
表示データフィールド No	情報表示データのフィールド No を設定します
照合データ数	マスターファイルから取得する照合データ数(1～5)を選択してください。 <b>照合データを取得しない場合は0にしてください。</b>
照合データ	マスターファイルから取得した参照データを照合データに設定します。

### ■ファイル名

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

<大文字半角英数字 1～8文字>、<拡張子(大文字半角英数字 1～3文字)>

(拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMPを使用しないでください。)

フィールド情報ダイル(FLD)は、下記の書式で作成してください。

<フィールド 1 桁数>、<フィールド 2 桁数>、<フィールド 3 桁数>、・・・、<フィールド N 桁数>

設定フィールド桁数範囲：1 ～ 99



### ③照合条件設定

読み込んだバーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データの照合条件を設定します。

設定項目	説明
照合条件	照合条件を満足した場合にOKを表示します。 条件A, 条件A and 条件B, 条件A and 条件B and 条件C, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D and 条件E から選択します。選択により条件A～条件Eの設定に必要な条件を表示します。
条件A～E	バーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データを設定します。

条件の左はバーコード読取で取得した照合データから選択し、右は既に取り得している照合データとマスター参照により取得した照合データから選択します。

[照合元データA]～[照合元データE]の表示は、照合元のバーコード読取で設定した照合データです。

[照合元マスターA]～[照合元マスターE]の表示は、照合元のマスター参照で設定した照合データです。

[照合先1データA]～[照合先1データE]の表示は、照合先1のバーコード読取で設定した照合データです。

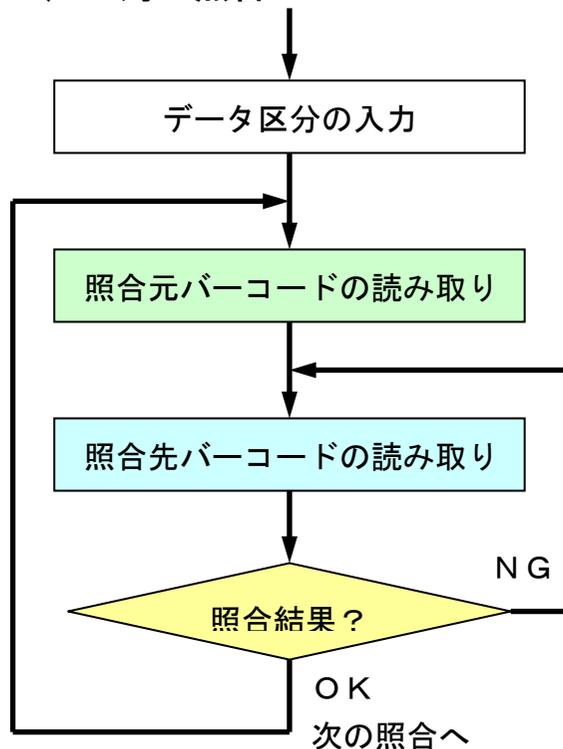
[照合先1マスターA]～[照合先1マスターE]の表示は、照合先1のマスター参照で設定した照合データです。



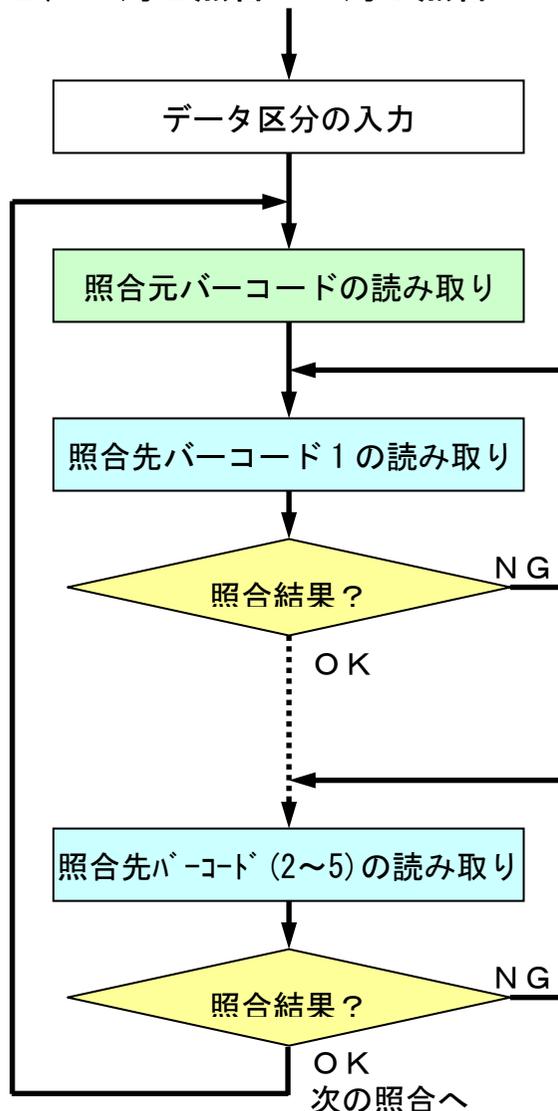
### 3-2 動作モード

1対1照合, 1対2照合, 1対3照合, 1対4照合, 1対5照合, 1対N照合から選択します。

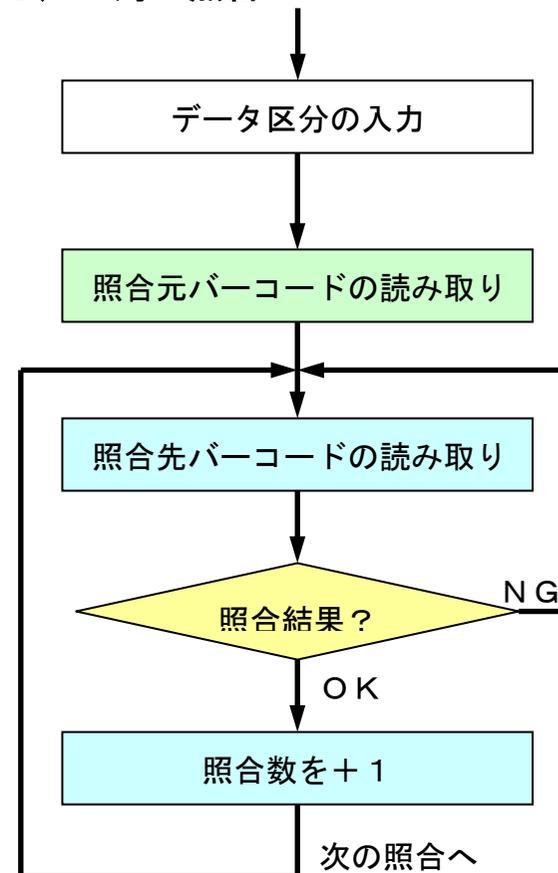
#### 1) 1対1照合



#### 2) 1対2照合～1対5照合



#### 3) 1対N照合



注) 「データ区分入力」はデータ区分を使用する場合のみです。



### 3-3 OK/NGブザー設定

OK表示時間  1/10秒      NG表示時間  1/10秒

OK/MGを表示する時間を、1/10秒単位で0~99の数値を設定します。  
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

周波数  Hz      鳴動回数  回

鳴動時間  1/10秒      休止時間  1/10秒

動作デバイス

周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間  
を使用してブザー，バイブレータを動作  
させます。

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62~5000Hz 3~61の値は設定できません。 0, 1, 2を設定した場合、「LCDコントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62~5000Hzを設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0~99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1~99 1/10秒単位で設定
休止時間	1~99 1/10秒単位で設定
動作デバイス	ブザー，バイブレータ，ブザー+バイブレータから選択



## 4 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックしてください。

1対1照合 照合プログラム設定 (BHT-1500)

ここをクリック →  照合結果を保存する

保存ファイル H.TXT      保存フィールド数 7

保存条件 照合OK/NG

フィールド	設定	桁数	桁目	桁
フィールド1	データ区分	1	桁目から	6
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	13
フィールド3	照合先1バーコード	1	桁目から	13
フィールド4	OK/NG	1	桁目から	2
フィールド5	照合数	99	桁目から	4
フィールド6	日付A(YYYY/MM/DD)	1	桁目から	10
フィールド7	時刻A(HH:MM:SS)	1	桁目から	8

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8文字>、<拡張子(大文字半角英数字 1～3文字)> (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大16フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK、照合NG、照合OK/NGから選択します。 照合OK：照合OKになった場合にデータを保存 照合NG：照合NGになった場合にデータを保存(エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG：照合OKと照合NGの場合にデータを保存



## ■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o, データ区分, 照合元バーコード, 照合先バーコード, O K, N G, O K / N G, 照合数, 照合日付, 照合時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける 3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
照合元バーコード	照合元において読み取ったバーコードデータ
照合先 1 ~ 5 バーコード	照合先 1 ~ 5 において読み取ったバーコードデータ
O K	“OK”
N G	“NG”
O K / N G	“OK” or “NG”
照合数	日付と時刻以外が同じデータの照合数を保存します。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプで YYYY / MM / DD (10桁) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプで YYYYMMDD (8桁) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプで YY / MM / DD (8桁) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプで YYMMDD (6桁) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプで HH : MM ; SS (8桁) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプで HHMMSS (6桁) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプで HH : MM (5桁) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプで HHMM (4桁) を保存します。

データ区分, 照合元バーコード, 照合先バーコードの場合、保存するデータの先頭位置と桁数（保存桁数）を設定します。  
H t N o と照合数は桁数（保存桁数）を設定します。

フィールド1   桁目から  桁

上記の場合、データ区分の 1 桁目から 16 桁のデータを保存します。  
「99 桁目から 16 桁」と設定した場合は、「末尾から 16 桁」のデータを保存します。



## 5 設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

1対1照合 照合プログラム設定 (BHT-1500)

☑ 照合結果を保存する  
保存ファイル A.TXT      保存フィールド数 7  
保存条件 照合OK/NG

データ区分  
照合条件  
データ保存  
キャンセル

ここをクリック → **更新**

フィールド1	データ区分	1	桁目から	6	桁
フィールド2	照合元バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド3	照合先1バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド4	OK/NG	1	桁目から	2	桁
フィールド5	照合数	99	桁目から	4	桁
フィールド6	日付A(YYYY/MM/DD)	1	桁目から	10	桁
フィールド7	時刻A(HH:MM:SS)	1	桁目から	8	桁



## 6 マスターファイル作成／送信

[マスターファイル作成/編集/転送] ボタンをクリックします。



新規作成

The 'フィールド情報設定' (Field Information Setting) dialog box is shown. It contains the following fields and values:

検索キー桁数	13 桁
参照データ数	2
参照データ1桁数	20 桁
参照データ2桁数	6 桁

Buttons: キャンセル (Cancel), 確定 (OK)

参照データ数を1にして、フィールド情報で設定した検索キー桁数と参照データ桁数を設定します。

確定

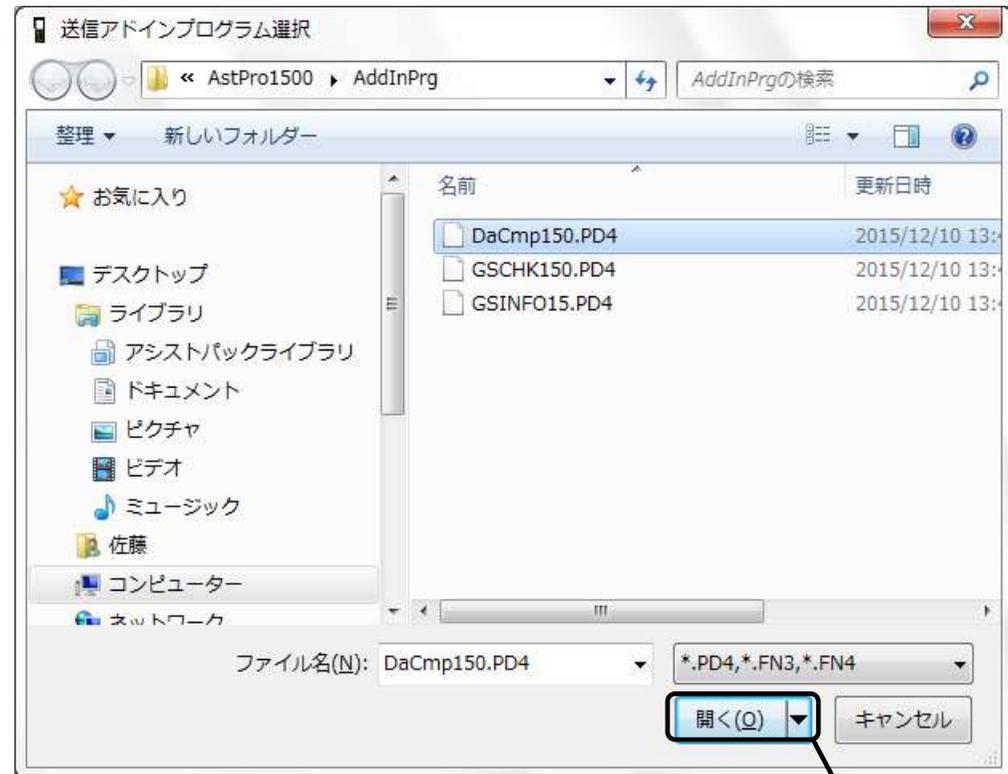




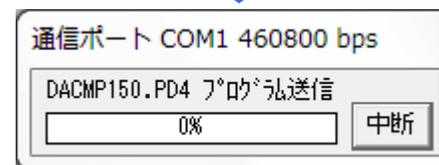
## 7 ハンディターミナルプログラム

### 7-1 アドイン照合プログラムダウンロード

アドイン照合プログラム「DACMP150.PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



DaCmp150.PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

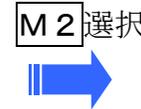
**M1** 戻る **M2** 実行



**ファイル受信**  
通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth
3. #####. PD4
4. \$\$\$\$\$\$. PD4

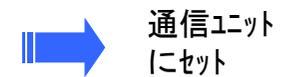
**M1** 戻る **M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**M1** 戻る CU-USB



通信ポート COM1 460800 bps

DACMP150.PD4 送信中

60%

中断



プログラム転送

正常終了

OK

## 7-2 業務設更新

アドイン照合を設定した業務設定をBHT-1500に送信して更新します。

新規作成
  開く
  保存
  送信データ一覧外表示
  **業務設定送信**
 業務設定受信
  閉じる
  終了

業務設定送信

ここをクリックする



通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信

0%

中断



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
- 5. 業務設定受信**
6. 業務設定送信
7. バーコード 読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る M2 実行

M2 実行



**業務設定受信**

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

M1 戻る M2 選択

M2 選択



**業務設定送信**

通信ユニットに  
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信中

50%

中断



業務設定データ...

正常終了

OK

### 7-3 アドイン照合プログラム実行

**業務メニュー**

- 1. バーコード照合**

F1 VerSCAN送信 M2 実行

M2 実行



**バーコード照合**

データ区分

.....

M1 終了 M2 確定

データ区分を設定した  
場合にのみ表示します。



照合画面



7-4 1対1照合 ~ 1対5照合

バーコード照合

照合元

.....

M1 戻る

マスターバーコード  
読取



M1 戻る

バーコード照合

照合元  
4912345678901

照合先  
1 / 1

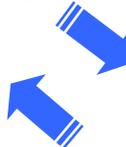
M1 戻る

照合OK



次の照合  
バーコード読取

照合NG



バーコード照合

照合元  
4912345678901

OK

照合終了すると  
次のマスターバーコード  
読取画面へ



データ保存で  
保存条件が  
照合OK, 照合  
OK・NGの場合に  
データを保存し  
ます。

データ区分を設定しない場合は「終了」を表示します。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。  
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合

照合元  
4912345678901

NG

データ保存で  
保存条件が  
照合NG, 照合  
OK・NGの場合に  
データを保存し  
ます。



## 7-5 照合 1対N照合

バーコード照合	
照合元	
.....	
M1 戻る	

マスターバーコード  
読取



M1 戻る

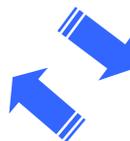
バーコード照合	
照合元	
4912345678901	
照合先	
照合数	99999
M1 戻る	

照合OK



次の照合

照合NG



バーコード照合	
照合元	
4912345678901	
OK	

データ保存で  
保存条件が  
照合OK, 照合  
OK・NGの場合に  
データを保存  
します。

照合元バーコードを読み取ると、照合数を0にします。

照合元入力： キーとバーコードの入力可能です。  
照合先入力： バーコード入力のみ。

バーコード照合	
照合元	
4912345678901	
NG	

データ保存で  
保存条件が  
照合NG, 照合  
OK・NGの場合に  
データを保存  
します。



## 7-6 入力/データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

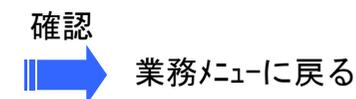
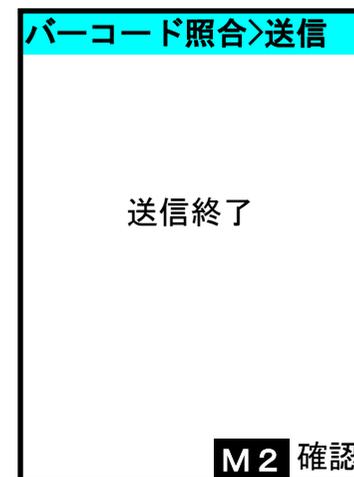
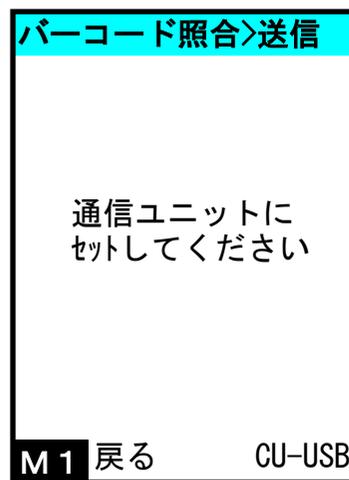
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
照合データ未登録	照合データ未登録	マスター照合において、読み取った照合元バーコードが照合マスターファイルに登録されていない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



## 7-7 照合データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して **SCAN** キーを押します。



未送信の保存データがあると業務メニューに▶を表示します。



## 7-8 マスターファイル受信

業務メニューにおいて **SF+0** を押すとファイル受信状態になります。

